

人工関節製造販売の帝人ナカシマメディカル(岡山市東区上道北方)は19日、タイに初の海外拠点となるテクニカルセンターを開設した。同国を中心とした東南アジアの人々の体形に合った人工関節を開発し、新規市場を切り開くのが狙い。現地生産も検討し、2014年度で約29億円の売上高を、20年度には100億円に引き上げたい考え。(久万真毅)



タイに開発拠点開設

現地向け人工関節 生産も検討

同社の人工関節は、前身のナカシマメディカルがグループ会社のプロペラ製造技術を応用して製造。09年から日本人と比較的体形に近い中国やシンガポールに輸出してきたが、関節の形や大きさが微妙に異なるため、開発段階から現地で手掛けることにした。センターは、首都バングコク近郊のパトゥムターニー県にあるインキュベーション施設の一角に輸出してきた室(14.5平方メートル)を賃借して開設。当面はタイ人の患部をCTスキャンで撮影して3次元画像を作成。人工関節の開発に必要なデータを蓄積し、機器研究などを手掛けるタイ国立金属材料技術研究センターからも



テクニカルセンターが入居するタイのインキュベーション施設(帝人ナカシマメディカル提供)

地子会社「ナカシマメディカルテクニカルセンター」が運営。現地ではこの日、同資本金は500万円(約2千万円)で、社長は中島義雄・帝人ナカシマ会長が兼務する。従業員は人工関節は欧米メーカーが世界シェアの9割超を占める。同社によると、タイはアジアで比較的高齢化率が高く、人工関節手術も膝だけで年2万件ほど行われている。しかしタイ国内には人工関節メーカーがなく、欧米製品もサイズが大きすぎて合わせにくいという。資本金8億5千万円、従業員約190人。